

郷祭の現在

小澤輝見子

Present Situation of the Go Festival

KOZAWA Kimiko

はじめに

- ① ユキカキ祭
- ② 伝承と実態
- ③ 連続する祭
おわりに

【論文要旨】

滋賀県東近江市妹町の春日神社のユキカキ祭は、その儀礼から、密接に水利慣行に繋がるとされ、中世期に一つの庄園であった四町で組織される、いわゆる宮座の祭という歴史性にも注目されている。これまで、近江湖東地方における「郷祭」は、用水で繋がる「井郷」によるものとの見解が多く、研究者に提出され、さらに実証されたが、土地整理の結果、水利関係が消滅した地域の祭の現在の状況には触れられてこなかった。

当報告では、水利権は祭の儀礼と実際に適応するのか、そして灌漑施設の発達によ

り水という枠組を失った祭は、何を紐帯に結合しているのかを追った。結果、実際の水利権に適応していなかったこの祭は、現在においては「水」という語りさえ消滅していることが理解できた。しかし代わりに中世期の当地の歴史が注目され、様々な変化が儀礼に組み込まれ続けている。現在の郷祭は、過去から現在にわたる変革が混じりあった非常に重層的な形となつて連続し、変遷する中、伝承もその時代に必要で的確な「意味」が何度も組み変わっていくのである。

【キーワード】郷祭、宮座、水利権、伝承、語り、歴史意識